

学習評価について（中学校総合）

観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されました。

<現行>

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

<新>

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

現行の4観点で評価していた指導事項が、全て3観点到整理されました

総合的な学習の時間の評価

学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。（従前と同様）

改善等通知（30文科初第1845号平成31年3月29日付通知）
小学校児童指導要録（参考様式）
様式2（指導に関する記録）表面

<参考> 改善等通知別紙1及び別紙2

各学校は、学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標（小学校では、第5章第1）及び学校教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間の目標を定める。そして、この目標を実現するにふさわしい「探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を示した内容を設定する。この目標と内容に基づいた観点を設定することになります。

観点の設定に当たっては、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」について、学習指導要領に示された三つの事項（小学校では、第5章第2の3（6））に配慮する。

具体的な学習状況の評価の方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、の三つが重要。

【総合的な学習の時間の記録】

※中学校生徒指導要録（参考様式）においても同様

評価の観点と趣旨

（従前の評価の観点）

【総合的な学習の時間の目標（第1の目標）を踏まえた教科の観点の例】

よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的、創造的、協同的に取り組む態度	自己の生き方
【学習指導要領に示された視点（第3の1（4））を踏まえた評価の観点の例】			
課題設定の力（学習方法）	情報収集の力（学習方法）	将来設計の力（自分自身）	社会参画の力（他者や社会との関わり）
【各教科の観点との関連を明確にした評価の観点の例】			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

（改訂における評価の観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

学習指導要領の目標を踏まえ、各学校が具体的に定めた目標と内容に基づき設定します。

指導と評価の計画 例

<参考>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
国立教育政策研究所 教育課程研究センター(令和2年7月)

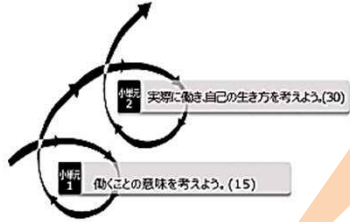
観点別学習状況の評価の進め方 例「知識・技能」

総合的な学習の時間 事例2
キーワード 指導と評価の計画、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価、
生徒の学習の姿と見取り

単元名
人はなぜ働くのだろうか？
～仕事を通して自己の生き方を考える～(第2学年)

内容のまとめ
「勤労」(全45時間)

本単元は、全体計画に定めた探究課題「働くことの意味や働く人の夢や願い」を踏まえて構想した単元である。総合的な学習の時間に行われる職場体験活動は、生徒が社会と関わり、自己の生き方を具体的、現実的なものとして考える探究的な学習として行われる。職場体験活動を通して、自分自身の特徴を内省的に捉えたり、周囲との関係で理解したりして、学ぶ意味や自己の将来について考えることが期待できる。本単元は、地域にある職業を調べたり、実際に体験したりする活動を通して、単元の目標にある資質・能力の育成を目指したものである。



1 単元の目標
地域の仕事や、その仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、働くことの意味と自分自身の生き方との関わりが気付き、働くことの意味を自分との関わりで考えるとともに、今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見いだすことができることに気付いている。 ②収集した情報を手際よく分類し、分かりやすい方法で表している。 ③働くことの意味を考える学習が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。	①働くことの意味について、自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから、自分自身で課題を設定し、見通しをもっている。 ②他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。 ③相手や目的に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、自身の活動を振り返りながら次時の活動に生かそうとしている。 ②仕事と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。

「単元の目標」は、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することをめざすのかを明確に示したものです。

単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、「評価規準」を作成します。

「自己理解・他者理解」「主体性・協働性」「将来展望・社会参画」などについて設定します。

探究のプロセス(「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」)を踏まえて設定します。

「概念的な知識の獲得」「自在に活用することが可能な技能の獲得」「探究的な学習のよさの理解」について設定します。

3 指導と評価の計画 (45 時間)

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 働くことの意味を考えよう。(15)	・自分で考えた働くことの意味と、実際に働いている人が考える働くことの意味には違いがあることに気付く。 ・地域にある職業を知り、職場体験学習をする事業所を決定し、事業種ごとに働くことの意味を探る計画を立てる。 ・事業所にインタビュー(兼事前訪問)をしたり、保護者や地域へのアンケートを実施したりして、情報を集める。 ・調査活動によって得た情報をもとに、働くことの意味について考える。 具体的事例①「知識・技能①」	①			・ワークシート
2 実際に働き、自己の生き方を考えよう。(30)	・インタビューやアンケートで得られた情報を伝えたいことに即して分類したり、表現したりする。 具体的事例②「思考・判断・表現②」 ・整理した情報をまとめ、学級全体で共有する。 ・全体共有で感じた疑問点をグループで共有し、今後の活動の見通しをもつ。 ・疑問点をまとめ、課題として設定するとともに、職場体験学習の計画を立てる。 ・実際に職場体験学習を行い、事業所の方に新たな疑問についてインタビューをしたり、体験から得た感覚的な情報を自己の変化に着目して職場体験ハンドブックにまとめたりする。 ・インタビュー活動で得た新たな情報や職場体験を通して記録したことを整理・分析し、仕事をする理由と自己の成長の関係を知る。 ・将来の職業をイメージし、今後どのような社会人になりたいか、これからどのように生きたいかの提言をレポートにまとめ、立憲式で発表する。また、発表内容を事業所に感謝の手紙とともに送り、事業所の方からコメントをもらう。 具体的事例③「知識・技能③」	②	②		
		③		③	

評価場面：
アンケートやインタビュー活動から得られた情報を整理・分析する場面

評価：
ウェビングマップとワークシートに記述したもののから「概念的知識の習得状況」を評価していきます。

評価場面：
これまでの活動を踏まえて、事業所にお礼状を書く場面

評価：
事業所に宛てた礼状や生徒が訪問した際の担当職員の記録から、「探究的な学習のよさ」を理解している姿を評価していきます。